



であなたの手元に届くwebマガジン

おばこ稲作情報



2022年6月
No. 2 8

JA秋田おばこ



Youtube
はじめました



チャンネル登録
お願いします



生育調査結果 「分げつ始期」 低温で生育遅延。分げつ促す水管理を

本年度最初の生育調査を6月10日に行いました。今のステージは「分げつ始期」です。田植え前半と後半で活着の良し悪しが分かれてしまいました。また、5月後半から6月にかけての低温曇天で生育が遅れています。

これからは、分げつ発生を促すよう3cmほどの浅水管理で日中の気温差を大きくしてやます。ワキやカナが発生している場合は水の入れ替えや、半日ほど干すといった対策が必要です。

余り苗っちは早く投げでけれ〜



補植用余り苗は速やかに処分してください。これから梅雨らしい天気予報が出ています。知らぬ間にいもち病が発生し、地域に広がるかもしれません。箱処理剤を使用しても余り苗の中は密で風通しが悪く蒸れやすいため、発病するんですよ〜。

Let's SDGs! 小さなことからコツコツと



これからの時期、気温が高くなるにつれて、土中の有機物分解が盛んになり酸素が消費されていきます。酸素が無くなると温室効果ガスの一つである「メタン」をつくる微生物の活動が活発になり、水田からメタンが放出されてしまいます。この時、同時にワイている（異常還元）状態となります。メタンは二酸化炭素の25倍も温暖化の作用があるそうです。対策として、メタンを作る微生物は酸素があると活動が抑えられます。常時湛水ではなく、時折、水を入れ替えしたり、半日から一日程度干す、または中干しすることで、土中に酸素を供給してやります。こうすることで、メタン発生を抑えられるだけでなく、ワキ対策にもなり健全な稲の生育をすることができるとです。地球だけでなく将来の子どもたちのための稲作農業を繋げていきませんか。というお話でした。

LINE公式アカウント
「@ja-obako」で検索
稲作情報発信中!



ガラケーでも!
メルマガも始めました
稲作情報があなたの手元に!



稲作情報 No.4

発行日: 令和4年6月10日
発行: 仙北地域振興局農業振興普及課

～ほ場ごとの生育に応じた水管理・中干しを～

生育状況 および 気象概要

6月10日生育調査結果

	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)
本年値	24.4	5.4	106	5.7
平年値	24.9	7.7	156	5.8
平年比	98%	70%	68%	-0.1
前年値	23.5	5.5	101	5.3
前年比	104%	98%	105%	+0.4

6月10日現在のあきたこまちの生育は、草丈は24.4cmで平年よりやや短く(平年比98%)、茎数は106本/m²で平年よりも少なく(同比68%)、葉数は5.7葉で平年より生育が2～3日遅れています(同差-0.1葉)。

5月下旬の最高気温が低かったことから、活着が遅れたこと、この期間の日気温較差(昼夜の温度差)が小さかったことから、分けつの発生が少なくなったと考えられます。

これまでの気象経過(アメダス大曲)



今後1ヶ月の気象(仙台管区气象台)

令和4年6月9日発表

- ・平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
- ・週別の気温は1週目(6/11～17)は低い確率が50%、2週目(6/18～24)は、高い確率が50%、3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

種別	期間	確率		
		高い	低い	平年並
短	6/11～17	0	50	50
	6/18～24	50	0	50
	6/25～7/1	50	0	50
	7/2～8	50	0	50
中	6/11～17	50	0	50
	6/18～24	50	0	50
長	6/11～17	50	0	50
	6/18～24	50	0	50

令和4年 農作業進捗状況

	始期 (5%)			盛期 (50%)			終期 (95%)		
	本年	平年差	前年差	本年	平年差	前年差	本年	平年差	前年差
播種	4/17	早2日	早1日	4/24	早1日	早1日	4/29	早1日	早2日
耕起	4/29	±0日	早1日	5/5	±0日	±0日	5/11	早2日	早3日
田植え	5/14	早2日	早2日	5/21	早2日	早2日	5/29	早2日	早2日

○春作業期間の4月から5月にかけて好天が続き、作業は平年より早く進みました。

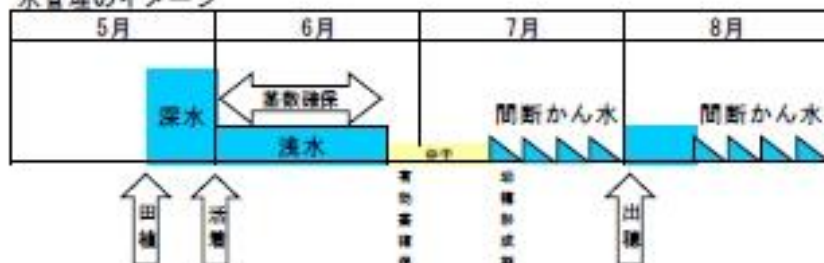
○かなり気温の高い日もあり、葉ヤケの症状やもみ枯細菌病の発生、軟弱徒長気味の苗が見られました。

技術対策

1. 分けつを確保する水管理

本年は生育が遅れているほ場が多く見られます。茎数が少ないほ場では茎数確保に向けた水管理を行いましょう。分けつの発生は日平均水温23～25℃で、気温の日較差が大きい場合に促進されます。かん水は水温の低い早朝に短時間で行い、日中は止水で浅水管理をすることで、水温と地温を高め日較差を大きくします。

水管理のイメージ



2. 中干し

目標茎数 (314～378本/m²) を確保したほ場は中干しに入ります。中干しは7～10日とし、田面に亀裂が1～2 cm入り足跡が付く程度にしましょう。

幼穂形成期に土壤水分が不足すると1穂粒数の減少を招くので、中干しは幼穂形成期前に終了しましょう。

また、中干し後の急激な湛水管理は根を傷める可能性があります。間断かん水を行い、土壤へ水分と酸素を交互に供給しましょう。

3. 葉いもちの防除について

葉いもちの感染時期はやや早い予報です。補植用余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への伝染源になります。ほ場に放置されている余り苗は、直ちに泥に埋めて処分してください。



箱施用剤または側条施用剤を使用していないほ場では、感染苗の持ち込み等に

より早期に本田で発病することがあります。オリゼメート粒剤を使用する場合は6月15日頃(6月12～18日)に2kg/10a散布しましょう。湛水状態で均一散布し、散布後4～5日は入水せず、7日間は落水や掛け流しはしません。

4. 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の発生時期は早い、発生量が多い～やや多い予報です。斑点米カメムシ類の主要種であるアカスジカスミカメの繁殖地になる農道や畦畔、休耕田、雑草地などの除草は出穂の10～15日前まで数回行いましょう。

また、昨年は、雑草発生量が多かったことから、今年の残存種子が多いと予想されます。カナ等の発生も散見されることから、雑草の取りこぼしに注意してください。

ほ場を良く観察し、取りこぼしがあった場合は発生草種に応じた中・後期剤の散布をしましょう。

～次回発行:6月下旬～